

# 高校日本史プリント (過去問類似)

## 中世 No.1

名前

得点

/10

**問1** 13世紀前半の1223年に、京都から東海道を下って武家政権の本拠地へと旅した人物によって著された作品である。作中には、当時の交通事情や都市の様子に加え、船着き場に多くの商人が集まりにぎわう社会経済の状況が描かれており、中世の交通や庶民の生活を知る上で貴重な史料となっている、この紀行文の名称を何とよいか。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 海道記                      2. 弁内侍日記                      3. 東関紀行                      4. 十六夜日記

**問2** 室町時代の近畿地方などで形成された自律的な村落では、構成員の連帯を強めるために神社の祭礼が重視された。この村落において、鎮守の神社の祭礼を維持・運営し、寄合の母体ともなった、特権的な家々や構成員による組織を何とよいか。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 宮座                      2. 講衆                      3. 惣中                      4. 若衆

**問3** 室町時代後期から戦国時代にかけて、明から輸入された宋銭や洪武通宝・永楽通宝などの銅銭が広く流通したが、同時に国内で鑄造された粗悪な私鑄銭も混入した。このため、人々が取引の際に良質な貨幣を選び、悪質な貨幣の受け取りを拒否する行為が一般化し、市場の混乱を招いた。この、良質な貨幣を選別する行為を何とよいか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 鑄銭                      2. 精銭                      3. 撰銭                      4. 悪銭

**問4** 室町幕府の保護と統制下にあった臨濟宗の官寺組織である五山・十刹に対し、その制外にあって独自の布教活動を展開し、地方の武士や庶民の間に深く浸透した禅宗諸派の総称として、最も適当なものを答えよ。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 林下                      2. 十刹                      3. 五山                      4. 諸山

**問5** 室町時代、明から大量の銅銭が流入して貨幣経済が急速に発達した。しかし、流通する貨幣の中には割れや欠けのある粗悪な私鑄銭なども混ざっていたため、人々が良質な銭を選び、劣悪な銭の受け取りを拒否する行為が横行し、取引の混乱を招く社会問題となった。この行為を何と呼ぶか。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 撰銭                      2. 徳政                      3. 為替                      4. 割符

**問6** 鎌倉時代、紀伊国阿氏河荘の農民たちが、領主である高野山に対して、現地で過酷な取り立てや暴力行為を行う武士の非道を訴えた。この訴状で訴えの対象となった、幕府から荘園の管理や徴税、警察権などを任されていた現地の役職を何とよいか。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 連署                      2. 守護                      3. 執権                      4. 地頭

**問7** 3代将軍源実朝の時代に、侍所別当であった和田義盛を挑発して挙兵に追い込み、これを滅ぼすことで執権としての権力をさらに強固なものとした人物は誰か。 (2007年 全国公立入試 類似)

1. 北条泰時                      2. 北条時宗                      3. 北条義時                      4. 北条時政

**問8** 鎌倉幕府が、二度にわたる蒙古襲来ののち、九州地方の防衛強化や現地の御家人の統制・裁判業務を迅速に行うために、1293年に博多に設置した機関は何か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. 京都守護                      2. 奥州奉行                      3. 鎮西探題                      4. 長門探題

**問9** 11世紀後半、東北地方の豪族である清原氏の一族内で内紛が発生した。この戦乱において、陸奥守であった源義家の助力を得て勝利を収め、のちに平泉を本拠地として奥州藤原氏の繁栄の基礎を築いた人物は誰か。 (2008年 全国公立入試 類似)

1. 藤原基衡                      2. 藤原泰衡                      3. 藤原秀衡                      4. 藤原清衡

**問10** 室町時代から戦国時代にかけて、浄土真宗（一向宗）の寺院や道場を中心に、周囲に濠や土塁を巡らせて形成された自衛的・自治的な都市が各地に現れた。富田林などに代表される、このような都市の形態を何と呼ぶか。 (2005年 全国公立入試 類似)

1. 城下町                      2. 宿場町                      3. 寺内町                      4. 門前町

## 答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 1 海道記	1223年（貞応2年）に京都を出発し、東海道を経て鎌倉に下った道中の様子を記した紀行文である。作者は未詳であるが、当時の宿駅の様子や、鎌倉の船着き場に集まる商人の活動など、鎌倉時代初期の交通や社会経済の実態を伝える貴重な歴史史料として位置づけられている。同様の鎌倉時代の紀行文には、1242年頃の旅を描いた『東関紀行』などがある。
問2	答え 1 宮座	室町時代に形成された惣村では、村の鎮守の神社の祭礼を運営する組織として宮座が結成された。宮座は、村の寄合の母体となり、一味同心の結束を誓い合う場として、惣村の自治的な運営において重要な役割を果たした。古代の占いである太占や、江戸幕府の職制である寺社奉行は、中世惣村の祭礼運営組織ではないため誤りとなる。
問3	答え 3 撰銭	日明貿易などを通じて中国から大量の銅銭が流入したが、室町時代後期になると、国内で私的に鑄造された粗悪な私鑄銭（鋸銭）が混じるようになった。人々は支払いの際に、割れや欠けのない良質な銭を選び、粗悪な銭を嫌う選別行為を行うようになり、これが円滑な取引を妨げたため、幕府や大名による規制が必要となった。
問4	答え 1 林下	室町時代、幕府の保護と統制下にあった臨済宗の五山・十刹に対し、その制外にあって独自の布教活動を展開した禅宗諸派は「林下」と呼ばれた。これには臨済宗の妙心寺派や大徳寺派、および曹洞宗が該当し、地方の武士や庶民の間に深く浸透した。
問5	答え 1 撰銭	室町時代には明から大量の銅銭が輸入され、国内の貨幣流通量が飛躍的に増大した。これに伴い、私鑄銭や破損した銭などの劣悪な貨幣を嫌い、良質な貨幣を選別して受け取りを拒否する行為が行われるようになった。これにより円滑な取引が妨げられたため、幕府や守護大名は撰銭令を出して、一定の基準で劣悪な銭の流通を強制したり、混入割合を定めたりして市場の混乱を収めようとした。
問6	答え 4 地頭	源頼朝が国ごとに守護、荘園や公領ごとにこの役職を設置した。彼らは現地で年貢の徴収や土地管理、治安維持を担ったが、次第に荘園領主の支配を侵害し、独自の支配（不法行為）を強めるようになったため、阿氏河荘のように農民から訴えられるケースが生じた。
問7	答え 3 北条義時	源頼朝の死後、北条氏は有力御家人を次々と排斥して権力を握った。第2代執権である北条義時は、1213年に侍所別当の和田義盛を挑発して挙兵させ（和田合戦）、これを滅ぼした。これにより侍所別当の地位も執権が兼ねるようになり、北条氏の独裁的地位が確立されていった。
問8	答え 3 鎮西探題	蒙古襲来（元寇）ののち、鎌倉幕府は九州の防衛体制を強化し、現地の御家人に対する統制や領地訴訟などの裁判を迅速に処理するため、北条氏一門を長官とする機関を博多に設置した。これが鎮西探題であり、これにより北条氏による九州支配が強化された。
問9	答え 4 藤原清衡	前九年の役ののちに奥羽で強大化した清原氏の内紛（後三年の役）において、源義家の介入を経て勝利を収めたのが藤原清衡である。清衡はその後、陸奥・出羽の支配権を確立し、平泉に拠点を移して中尊寺金色堂を建立するなど、奥州藤原氏の繁栄の基礎を築いた。
問10	答え 3 寺内町	浄土真宗（一向宗）の寺院や道場を中心に、周囲に濠や土塁を巡らせて形成された自衛的・自治的な都市は寺内町と呼ばれる。河内国の富田林や摂津国の石山、大和国の今井などがその代表例である。これに対し、伊勢湾に臨む桑名などは港町として発達した。